



# 山名一族会報

全国山名氏一族会  
〒667-1311 兵庫県美方郡香  
美町村岡区村岡2365 法雲寺内  
電話 0796-198-1115  
FAX 0796-198-1161

## 平成26年総会の開催計画

去る5月13日の理事会で、「提案頂きました内容を元に、「H26年総会」の計画を立案致しました。今回は「源氏三社（六孫王・多田・壺井神社）」を中心に、「山名氏源流巡り」の企画です。会員諸氏の「ご参加よろしく」お願い致します。

今回で21回となる山名会総会は「山名氏の源流を巡る」として、源氏三社（六孫王・多田・壺井）を中心とした計画を進めています。

山名会も代替わりや新会員様入会で、会員の顔ぶれも随分若返って？居ります。

若年の会員にとっては「山名氏も清和源氏の流れ」と頭では分かっているのですが、清和源氏の裾野が広いだけに、その分、山名との関わりが余り感じられないところが有ります。また、戦後の教育を受けて育って来た者（事務局も含め）にとっっては、いい加減な歴史教育の影響もあり、そもそも「清和源氏とは？」と言うところからして分かったように、自信が無いところもあります。

今回の総会では山名氏の出発点である清和源氏、河内源氏、新田氏、山名氏へと繋がる流れを、その所縁の地を訪ね、土地の雰囲気を感じたい、実感出来ればと考えます。ベテラン会員皆様にとっっては、「そんな基本的なこと・・・」と、思わ

れるかも知れませんが、どうか若年会員を薫導して頂く意味でも、ご参加よろしくお願い致します。

### 日程について

総会の予定等につきましては、左記の日程表及び、「総会のご案内」に掲載しているとおりで御座います。開催日につきましては、少し遅めの

#### 第1日目（11月29日・土）

時刻	行事	場所
12:30	京都・六孫王神社で受付	京都市南区八条町
13:00	総会開催	
14:00	『近世京都の地図にみる歴史の流れ』 講師 山名年浩氏	
15:30	六孫王神社参拝・記念撮影	
16:30	宿舎へ移動 太子温泉着	バス移動 大阪府南河内郡太子町
18:30	懇親会	

#### 第2日目（11月30日・日）

時刻	行事	場所
8:10	聖徳太子陵参拝・散策	大阪府南河内郡太子町
9:30	壺井八幡宮参拝（源氏三代御廟等） 大阪市周辺で1箇所見学	羽曳野市壺井
12:30	「がんこ宝塚苑」で昼食	
14:20	多田神社参拝	川西市多田院多田所町
16:00	新大阪で解散（JR利用者）	
16:30	京都で解散（自家用車の方）	



六孫王会館3階のホール（総会会場）

エレベーターが無いのが少し難だが、窓越しには東寺をはじめ京風景が展望出来る。一見の価値あり。

予定となりましたが、ご理解お願い致します。

ゆく秋の名残を惜しんで、河内の秘湯に浸かりつつ、皆様と共に遠祖の足跡に思いを巡らせたいと願って居ります。

### 移動等ご留意点

尚、1泊2日の日程で、六孫王神社（京都）・壺井八幡宮（羽曳野）・多田神社（川西）の各地を巡りますので、全体がバラバラにならないようにご協力をお願い致します。

\*集合場所の六孫王神社に集合後、以降の移動は観光バスにて全体で移動します。（ご事情のある方は自家用車で移動可）

\*自家用車で集合地の京都までお越しの方は、事務局が準備する駐車場にお止めください。

\*第2日夕刻、新大阪でJR利用者解散。その後、京都まで戻り自家用車利用者解散。

\*脚に自信が無い方で、車椅子の準備が必要な方は、申込ハガキにそ

の旨で記入ください。

その他ご要望ご希望等が御座いましたらご連絡下さい。出来る範囲で対応させて頂きます。

### 会誌「山名」第6号へのご寄稿をお願い

昨年200部作成しました「山名第5号」ですが、山名会会員以外で求められる方も結構居られ、残数が数冊程度となりました。もっと多めに印刷しておけば良かったと反省しています。本年発行します6号は冊数を2倍の400冊で考えています。



つきましては会員諸氏には会誌「山名」へのご寄稿をどうかよろしくお願いいたします。寄稿テーマにつきましては、特段限定しておりません。「山名氏」・「山名会」に関する事で自由にご文をお寄せください。既に幾人の方々から貴重な資料・文書を頂いて居りますが冊子を編集する程には至っておりません。

- \*山名氏に対する歴史考察。
- \*各家に語り継がれた伝承。
- \*山名会に期待すること。
- \*H25年総会の感想・・・

気軽に投稿お願いいたします。

H26総会  
訪問先のご紹介

総会で参拝・見学をさせて頂く先  
を簡単に紹介します。

六孫王神社



六孫王神社

源経基(つねもと)公を祭神とする。経基は清和天皇の第六皇子貞純親王の子であることから「六孫王」と呼ばれた。嫡子で、当社を創建した源満仲が清和源氏の武士団を形成したことから、「清和源氏発祥の宮」と言う。社地は、源経基の邸宅「八条亭」の跡地である。年次総会と歴史講演は六孫王神社の会館(3Fホール)を使用させて頂き、その後参拝をさせて頂く予定。

多田神社

清和源氏武士団発祥の地であり、猪名川に面したこの地に居城を構えた源満仲によって天禄元年、多田院(寺院)として建立される。明治の神仏分離の際に神社となった。多田神社は清和源氏の霊廟として、源満仲、源頼光、源頼信、源頼義、源義家を祀る。源氏の流れを汲む足



多田神社

間に徳川家綱が再建したもの。尚、多田神社には清和源氏同族会があり、清和源氏末裔の結束と繁栄を願う事業を展開している。山名会の会員にも同会所属の方もいる。

壺井八幡宮



壺井八幡宮

羽曳野一带は河内源氏の本拠地で、源頼信が河内国国司に任じられて以降、頼信・頼義・義家の3代にわたって当地に居住し、河内源氏と呼ばれるようになった。源頼義が、私邸の東側に社殿を造営し、石清水八幡宮を勧請したのが始まりである。平成初頭の大幅な大改修に際しては、多くの山名会員もこの事業に関わった。500メートル程離れた通法寺跡や付近の山



源頼義公御廟

ます)

中に頼信・頼義・義家の御廟が点在する。(今回は時間の関係で3カ所とも全部巡るの今回は無理かと思えます。その点ご理解いただきます)

聖徳太子御廟 (叡福寺)



聖徳太子御廟

叡福寺には、聖徳太子とその母(用明天皇皇后)、太子の妃が眠っているとされている。聖徳太子は生前、この地を墓所と定め、母が没するここに葬り、翌年、没した聖徳太子と妃が追葬された。太子の没後、伯母にあたる推古天皇が土地建物を寄進し、墓守りの住む堂を建てたのが叡福寺の始まりとされている。

聖徳太子は「日本仏教の祖」とする考えもあり、空海、親鸞、日蓮などもこの寺に参籠したことが知られている。山名氏とは直接にかかわりは有りませんが、近隣でも有り参拝します。

太子温泉

「聖徳太子めぐみの湯」として、昭和60年代に開湯。壺井八幡宮・叡福寺に近く、100%源泉掛け流しのお湯には定評がある。華やかな温泉地の有名旅館では無いが、二上山を臨む万葉の郷で、ゆったりとした一時が過ごせると思います。



太子温泉